

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連のネットニュース「天健ネット日本語版」より

2011 夏季ダボステーマ：品質向上、経済構造掌握

9月6日午前、北京で開催された2011ニューチャンピオンズ年次総会(“夏季ダボス”)記者会見上で、第5期の夏季ダボスは9月14日-16日に大連で開催されることが発表された。“品質向上、経済構造掌握”が今期の新しい指導者会のテーマとなり、8月31日まで、すでに1644人の参加登録がある。

今年の夏季ダボスでは、開幕式、閣僚会議、全世界青年指導者の年次定例会、文化晩餐会、産業旅行イベント、青年科学者のイベント、大連の芸術家による展覧会、昨年の定例会で撮影された写真展覧会、閉幕パーティーなどの9項のイベントが予定されています。現在各準備活動が行われており、すでにキルギスタンの首相、イギリス前首相、ギニア大統領など8名の現職又は元国家指導者の参加が決定している。

温家宝首相、2011 夏季ダボス会議（大連）

開幕式に出席へ

外務省の姜瑜・報道官が7日明らかにした。温家宝首相は14日、大連で開かれる世界経済フォーラム2011年ニューチャンピオン年次総会（夏季ダボス会議）の開幕式に出席、開会のあいさつを述べる。

大連市で行われる最も大規模な国際コンベンションが夏季ダボス会議で、2007年に大連で開催され、それ以後2008年と2010年は天津、2009年と2011年は大連と、交代で開催されている。

ダボス会議は、世界経済フォーラムが毎年冬にスイスのダボスで開催している経済人のフォーラム。サミット議長国の総理大臣・大統領が、冬のダボス会議でアジェンダをぶち上げることで、世界から注目されている。ダボス会議は今や世界の経済論議の中に完全に組み込まれた存在となっている。

中国では、これに匹敵する会議を創りたいと、中国版ダボス会議として「ボアオ会議」というのを2002年に始めたがうまくいかず、ダボス会議を中国の中に取り込む戦略へ変更し、2007年に大連市でサマーダボスが初開催された。

サマーダボスと言われるこの会議は、世界経済フォーラムの「ニュー・チャンピオンズ年次総会」で、中国、インド、ロシア、メキシコ、ブラジルを始めとした急成長の新興国を拠点とするビジネスの成功者を主な対象とした会議。それと同時に、政治家や経済人も参加する様々なフォーラムも開催される。2011年は、日本から参加したのは、オリックス・宮内義彦会長、川口順子・元外務大臣、竹中平蔵・元総務大臣、ジャパネットタカタ・高田社長ほかに参加した。

この会議期間中は、大連の街はダボスに染まる。なぜかという、大規模な交通規制が行われ、偶数日は偶数ナンバーだけ、奇数日は奇数ナンバーだけ通行可となるほか、トラック、危険物や化学製品を輸送する車両などが市内の主な区を通行できなくなる。ダボス会議が開催される星海広場は車両進入禁止、また、会場とホテルを結ぶ道路は、ダボス参加者が乗るバスが通る時間帯は交通規制でバスが通り過ぎるまで待たされる。参加者用のバスは、信号もすべて青、他の車は一切ない車線を走っていく。

街を挙げて歓迎するという意味かもしれないが、やり過ぎだという不満を持つ市民も少なくない。ダボス会議の参加者も有識者ばかりで、ここまで市民に迷惑をかけることを望んでいるとは思えない。共産主義の中国だから可能であって、民主主義国家でこんなことやれば、政権が倒れかねない。

ダボスは中国では「达沃斯 da wo si」と漢字で表記され、それがスイスの地名であるということは知らない人が多い。大連の一般市民の間では、ダボスと聞けば、大迷惑と思う人が少なくはないだろう。